

緑化だより

No.164 令和2年9月号



ナンバンギセル

- 季節の花(ケイトウ)
- 昆虫の話
(夏の終わりを告げる歌・ツクツクボウシ)
- 小さな世界こけ
(コケが観察できる場所(8-3))
- 研修会のご案内
- 展示会
- お知らせ・ご案内


広島県緑化センター・広島県立広島緑化植物公園
〒732-0036 広島市東区福田町 10166-2
TEL 082-899-2811 FAX 082-899-2843
URL <https://ryokka-c.jp>

季節の花

ケイトウ

「秋さらば写(うつ)しもせむと わが蒔きし 韓藍(からあゐ)の 花を誰が摘(つ)みけむ」
作者不詳 万葉集7-1362

これを訳しますと
(秋になればケイトウの赤い花や葉で、きれいな写し染めをしようと思って植えておいたのに、大事な花を誰かに摘み取られてしまった。)

この歌は、女性をケイトウの花にたとえ、秋になると告白しようとずっと胸に秘めていたのに、私が思っている美しい女性は誰かに盗られてしまった。大切にしていた彼女を失った悲しさと悔しさに失望を込めて詠っています。

ケイトウ(鶏頭)はヒユ科ケイトウ属の1年草です。原産地のインドから中国、朝鮮半島を經由して奈良時代に日本に伝わって来ました。

鶏頭(けいとう)は、花穂の頂がおんどりの赤い鶏冠(とさか)に似ているのでこの名前が付けられました。この鶏冠状の冠の下に扁平に帯化している部分にびっしりと付いているのが小花です。帯化とは茎が接着して、扁平な板のようになった1種の奇形です。

別名は「鶏冠花」(ケイカンカ)、「韓藍」(カラアイ)といます。「韓藍」は韓の国(朝鮮)から藍色の摺染の染料として渡来しました。鶏頭の花穂を絞り染めにした藍色の色合いが、万葉時代に神聖な儀式で用いた山藍で擦り染められた色合いに似ていたようです。ヤマアイ(トウダイグサ科)は日本の在来種です。

花期は6月~10月で、耐暑性があり、お盆の頃から秋の彼岸まで楽しめる夏~秋の代表的な花です。ケイトウの茎や葉は食用、花や種子は薬用として用いたようです。江戸時代には、赤、黄、桃色などいろいろな花が作出されました。花の形も、扁平なトサカゲイトウ、槍状のヤリゲイトウなどの品種があり、これらは野生のノゲイトウ(野鶏頭)から鑑賞用に作出されました。狩野派の絵師の狩野永徳の鶏頭は有名です。(上村)



トサカゲイトウ



ヤリゲイトウ

昆虫の話

夏の終わりを告げる歌・ツクツクボウシ

夏の間大声で歌っていたセミたちも涼しくなるにつれてその寿命を終え、静かになります。そんな中、最後まで歌い続けるセミがツクツクボウシです。ツクツクボウシは翅を含めた大きさが4cmほどの細身なセミで、北海道から九州まで広く分布しています。広島でもごく普通に見られ、7月の終わりから10月にかけてその声を聴くことができます。

ツクツクボウシの雄はその名の通り、「ツクツクボウシ」と聞こえる複雑な鳴き声をしています。これは一般的なセミが「カナカナ」や「ミンミン」といった単純な音の繰り返ししかしないのと対照的です。通常、セミは胸の内側にある発音膜を振動させ、その音をお腹の共鳴室で反響させることで大きな鳴き声を出しています。

一方、ツクツクボウシは鳴く際にお腹を激しく伸び縮みさせています。腹部をアコーディオンのように伸縮させることで共鳴室の大きさを変え、他のセミよりより複雑な声を出せるのです。夏の終わりから秋にかけて聞こえるその鳴き声を、昔の人は夏が去ってしまうのを「つくづく惜しい」と歌っていると考えました。現代の我々にとっては、夏の終わりを告げると同時に、たまった宿題を思い出させる恨めしい存在かもしれません。

多くの人にとって印象深いツクツクボウシですが、近年都市部ではその数を減らしています。地面の多くが舗装された市街地では、地中の温度が幼虫にとって高くなりすぎるためと考えられています。また近年頻発する豪雨によって、地中の幼虫がしみこんできた雨水で溺れてしまうことも一因のようです。幸い、呉娑々宇山の周辺ではまだまだその鳴き声を聞くことができます。ぜひ秋の山では、「ツクツクボウシ」という声に耳を傾けてみてください。

(市森林公園 こんちゅう館 逸見)



ツクツクボウシ

小さな世界 こけ

コケが観察できる場所(8-3)

今回も出合いの広場で観察しましょう。

スロープのコンクリート壁側面には数種類のコケが見ることができます。

セン類の**エゾヒラゴケ**は、樹幹や岩の上で見られますがここではコンクリート壁に着生しています。

ヒラゴケの仲間には、チャボヒラゴケ、セイナンヒラゴケやリボンゴケなどがありますが、どれも一次茎は樹幹や岩を這い、そこから出た二次茎は立ち上がります。葉は艶があり、卵型でシワがあります。

エゾヒラゴケは蒴柄が短く、苞葉が長いため、蒴は苞葉に包まれるように顔を出します。近縁のチャボヒラゴケは苞葉の間から、わずかに蒴をのぞかせます。胞子体は12月頃から作り始め、2月頃、葉を裏返してみると葉の間に赤い粒の蒴を見ることができますが、葉色や蒴の付き方のわずかな違いで同定は難しいようです。(山根)



エゾヒラゴケ



葉の裏につけた蒴

研修会のご案内

- 9月4日(金) 『遊学の森でやすらぎの
～秋の七草と薬草、秋の七草と健康について学びましょ
※ 自由参加、無料』 **中止になりました** 室 集合
神田 博史
- 9月9日(水) 『秋の七草と自然探勝
～おすきなふくは?～』 10:00～12:00 学習室 集合
講師: 広島県文化財保護審議会委員
(植物生態学)
吉野 由紀夫
- 9月12日(土) 『初秋のバードウォッチング』 10:00～15:00 学習展示館前 集合
散策路を歩きながら野鳥を観察しましょう
講師: 日本鳥類保護連盟会員
吉見 良一
- 9月19日(土) 『9月の自然探勝
～ヒガンバナはなぜお彼岸に咲くの?～』 10:00～15:00 学習展示館前 集合
散策路を歩きながら植物を観察しましょう
講師: 緑花文化士
横山 直江
- 9月27日(日) 『秋のきのこ入門観察会』 10:00～15:00 学習展示館前 集合
散策路を歩きながら発生しているキノコの説明を受けましょ
講師: きのこアドバイザー
川上 嘉章

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を抑制するため、
参加者はマスク着用、手・指の除菌、密集・密接を避けるようご注意ください。

☆お知らせ・ご案内☆♪

第2回

U.S.A. 遊学の森 **ネイチャーマスター検定**

日時: 9月19日(土) 13:00～受付開始

受付場所: 学習展示館カウンター

申込み: 自由参加・無料 ※詳しくはチラシ参照

展示会

場所: レストハウス

(ガラスケース展示)

・トール&デコラティブ ペインティング展 ～ 9月18日(金)

・つづらふじ手作りカゴ作品展 10月初旬～10月24日(土)

(パネル展示)

・ボタニカルアート展 9月19日(土)～10月30日(金)



過去の「ボタニカルアート展」より

～ 森林公園 イベント情報 ～

- 9月13日(日) 『ペットボトルロケットを作って飛ばそう』
受付: 午前の部 10:00～11:00 午後の部 13:00～14:00
場所: 中央広場
対象: 小学生以下の子どもと保護者
定員: 当日各部先着30組
参加費: 1セット 500円
- 9月27日(日) 『トリプルコンサート』 11:30～14:00
いろんなジャンルの音楽の演奏を楽しもう
場所: 芝生広場 休憩所
協力: ポケット, 二胡音楽院, C-cercle フルート&ピアノ